

コニカミノルタ八王子研究所見学会 感想文

先進理工学専攻3年 パーキン 暖

価値観は時代の移り変わりにともなって刻々と変化するため、現在価値があると考えられているものが数十年後に同等の価値を有していない可能性が高い。例えば、いわゆるガラケーは10年前に広く普及していたが、今はその生産が終了している。そこで、企業に求められているのはイノベーションを通じた価値の創造である。コニカミノルタは「新しい価値の創造」を経営理念に掲げ、これを成し遂げようとしている。私は、この度の研究所見を通して、コニカミノルタでの研究開発の内容と社内環境に触れた。

コニカミノルタ八王子研究所で紹介していただいた技術の一つには、液晶偏向板用TACフィルムがあった。液晶ディスプレイは正面以外の広角からでも綺麗に見えるように偏光板が入っており、それを保護するフィルムが液晶偏向板用TACフィルムである。TACフィルムはもともと写真用フィルムの基材であり、コニカミノルタは保持していたコア技術から新しい価値を見出したのだ。

また、有機EL照明の技術開発にもコニカミノルタは力を入れていた。発光部の材料に蛍光材料ではなくリン光材料を用いることにより、発熱量の少ない(高効率な)有機EL照明の開発がコニカミノルタで進められている。コニカミノルタは開発が困難とされている青色リン光材料の開発に成功しており、これはカラーコピー機のコア技術が生かされている。

このように、コニカミノルタでは既存の技術から新たな価値を見出し、日々イノベーションに向かって尽力している姿勢が感じ取られた。それは環境づくりからも感じられた。デスクは最小限の仕切りで仕切られており、部署間のコミュニケーションが容易に取れるようになっていた。また、会議スペースも場所によっては開放的な作りになっており、自由な発想がいかにも出て来やすそうな雰囲気がした。緑な植物が多く配置されていたのも、柔軟な思考をしやすくなるためらしい。

以上を踏まえて、コニカミノルタは様々な創意工夫を凝らし、「新しい価値の創造」を目指している良い会社なのだと思います。